

杉並高等学校 令和5年度 教科 芸術 科目音楽Ⅱ 年間授業計画

教科 科：芸術 科目：音楽Ⅱ 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～8組

教科担当者：（1～8組：相葉）

使用教科書：（ON！2 音楽之友社）

使用教材：（

）

	指導内容	科目 音楽Ⅱの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	・オリエンテーション ・音部記号について ・長音階について ・短音階について ・コンコーネ視唱 ・単旋律聴音	楽譜の書き方や、楽典の基礎を学習し、音楽大学受験に対応できる知識や技能を身に付ける。 音階についての基本的な知識を身につけ、受験に対応できる応用力を養う。 基本的な発声力を身につけるとともに、聴音では積み重ねを重視し、音やリズムを正しく記譜できる力を身に付ける。	観察、ノート、復習課題などを通して基本的な事項が身に付いているかを評価する。	6
5月	・音階の中の音の役割 ・近親調について ・調号と等の関係について ・ミュージカルの中の曲 ・コンコーネ視唱 ・単旋律聴音	調や調号などについて基本的な知識を身につけ、受験に対応できる応用力を養う。 ミュージカル曲の視唱を通して、豊かなに表現できる技術を身に付ける。 基本的な発声力を身につけるとともに、聴音では積み重ねを重視し、音やリズムを正しく記譜できる力を身に付ける。	観察、ノート、復習課題などを通して基本的な事項が身に付いているかを評価する。	6
6月	・音程について ・和音について ・オーケストラで使われる楽器研究 ・単旋律聴音 ・新曲視唱	音程や和音について基本的な知識を身につけ、受験に対応できる応用力を養う。 楽器の構造的特徴や音色、発達の歴史等について研究し、発表に向けた準備を工夫する。 音やリズムを正しく記譜できる力や、知覚した音を正しい音程で歌える技術を身に付ける。	観察、ノート、復習課題などを通して基本的な事項が身に付いているかを評価する。	6
7月	・楽器研究と発表 ・楽典のまとめとテスト	発表と相互評価	発表やワークシート、復習テストなどを通して基本的な事項が身に付いているかを評価するとともに、発表に対する姿勢を評価する。	6
8月	・イタリア歌曲 ・コンコーネ ・4声体聴音（大譜表・密集・開離についての知識）	歌曲やコンコーネを歌うための発声や発音、音楽的表現を身に付ける。 様々な聴音実践の中で、和音や音階などの楽典的知識を応用できる力を身に付ける。	歌曲実技に対する取り組みを評価するとともに、入試問題に対応できる技能や知識が身に付いているかを評価する。	2
9月	・イタリア歌曲 ・コンコーネ ・4声体聴音（大譜表・密集・開離についての知識） ・単旋律聴音 ・楽典演習	歌曲やコンコーネを歌うための発声や発音、音楽的表現を身に付ける。 様々な聴音実践の中で、和音や音階などの楽典的知識を応用できる力を身に付ける。 これまでの積み重ねを演習に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。	歌曲実技に対する取り組みを評価するとともに、入試問題に対応できる技能や知識が身に付いているかを評価する。	8
10月	・ドイツ歌曲 ・コンコーネ ・単旋律聴音 ・4声体聴音 ・楽典演習	歌曲やコンコーネを歌うための発声や発音、音楽的表現を身に付ける。 これまでの積み重ねを演習や聴音に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。	歌曲実技に対する取り組みを評価するとともに、入試問題に対応できる技能や知識が身に付いているかを評価する。	6
11月	・聴音 ・作曲家研究 ・楽器演奏練習	これまでの積み重ねを演習や聴音に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。 一人の作曲家について、楽曲や時代背景、影響を及ぼした芸術家、代表曲等を研究し理解を深める。 楽器演奏発表に向け、準備をする。	歌曲実技や発表などに対する取り組みを評価するとともに、入試問題に対応できる技能や知識が身に付いているかを評価する。	6
12月	・実技テスト ・研究発表 ・音楽大学受験準備（楽典・聴音・新曲視唱）	楽器演奏発表会と相互評価 研究した作曲家についての発表と相互評価 これまでの積み重ねを演習に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。	歌曲実技や発表などに対する取り組みを評価するとともに、入試問題に対応できる技能や知識が身に付いているかを評価する。	6
1月	・音楽大学受験準備（楽典・聴音・新曲視唱）	これまでの積み重ねを演習に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。	演習を通して入試問題に対応できる力が身に付いているかを評価の観点とする。	6
2月	・音楽大学受験準備（楽典・聴音・新曲視唱）	これまでの積み重ねを演習に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。	演習を通して入試問題に対応できる力が身に付いているかを評価の観点とする。	6
3月	・音楽大学受験準備（楽典・聴音・新曲視唱）	これまでの積み重ねを演習に生かし、受験に対応できる力を身に付ける。	演習を通して入試問題に対応できる力が身に付いているかを評価の観点とする。	6